

連載/スタート
START

日本農業遺産認定 丹波篠山の黒大豆栽培・300年の歴史

vol.01

2月19日「丹波篠山の黒大豆栽培」ムラが支える優良種子と家族農業」が日本農業遺産に認定されました。この認定を機に新たに分かったことなどを連載企画として皆さんにお届けします。

2▶13 「料理綱目調味抄」(享保15年(1730))：国立国会図書館所蔵



丹波篠山の黒大豆栽培はいつから始まったのか？

今から300年前、江戸時代の享保年間には栽培されていたことが史料から読み取れます。

江戸時代には今日と同じように多くの料理本が出版されていました。その中で、享保15年(1730)に出版された「料理綱目調味抄」に「くろ豆は丹州笹山名物なり」「黒豆 丹州笹山よし」と記されています。これが「丹波篠山の黒大豆」が間違いなく確認できる最も古い史料で、当時から丹波篠山の黒大豆は高く評価されていました。

「篠山封疆志」(享保元年(1716))にある「藜豆」(※1)が黒大豆を指し、これが最も古い史料との説もあります。しかし、「藜豆」は、ハッシュウマメのことであり、確かに豆は黒いのですが黒大豆とは異なる品種のようです。

(※1)「藜」の意味：多い・暗い・黒い、読み方：レイ・ライ・くろ



【左】「成形圖説 五穀部」(享保元年(1716))：国立国会図書館所蔵

【右】ハッシュウマメ。「藜豆」はハッシュウマメ(ムクナ豆)の可能性がある

画像：日本ムクナ豆協会 (<http://www.mucuna-bean.com/index.htm>)

パブリックビューイングで 溝畑選手を応援(4月7日)

東京オリンピックの代表選考会となる「第97回 日本選手権水泳競技大会」に市出身の溝畑樹蘭さん(自衛隊、コナミスポーツ)が出場しました。市役所では、溝畑さんを応援しようと、市民ホールでパブリックビューイングが行われました。日本選手権で100m自由形と200m個人メドレーにエントリーした溝畑さん。100m自由形では、準決勝を6位で通過し、決勝に進出しました。パブリックビューイングには、約50人がテレビ中継を見守りながら、熱い声援を送りました。しかし、力及ばず、悲願のオリンピック出場を果たすことはできませんでした。



預かり保育施設 「こどものおしろ」開所式(3月27日)

市内で預かり保育がなかった篠山・たまみず・岡野の3幼稚園の園児たちを保育する「こどものおしろ」が、4月1日から篠山幼稚園内に設立するのに先立ち、開所式が開かれました。開設時間は、月曜から金曜日まで幼稚園終了後から午後5時まで、土曜日や長期休暇中は午前8時30分から午後5時まで。今年度は、3人の指導員が10人の園児を見守ります。開所式では、園児たちが楽器演奏を披露した後、くす玉割りを行い、開所を祝いました。



競泳・福島美月さんにPR奨励金(3月29日)

3月に和歌山市で行われた「47都道府県通信水泳競技大会近畿ブロック大会」に出場した福島美月さんに丹波篠山ふるさとPR奨励金が贈られました。「NSI西紀スイミングスクール」の所属の福島さんは、「県JOCジュニアオリンピックカップ春季大会」の女子100mバタフライ(11~12歳)で優勝。標準タイムを突破して、全国大会への切符を手に入れました。今大会はコロナ対策のため、各ブロックごとに大会が開催。記録を競う形式で行われ、福島さんは8位となりました。



障がい者相談支援センター開所式(4月1日)

障がいのある人やそのご家族、支援者の方などが困ったときに相談できる窓口として、社会福祉課内に「丹波篠山市障がい者相談支援センター」を開所しました(☎555-6070 / FAX554-2332)。業務は、社会福祉法人わかたけ福祉会に委託し、社会福祉士である林佳美相談員が対応します。障がいのある人もない人も安心して暮らせるよう、地域の相談支援のさらなる充実をめざしていきます。障がい福祉に関する相談がありましたら、ご利用ください。



特集
14▶15 街かどリポート
16▶17 コロナウイルス感染症対策
18▶23 タウントピックス
24▶29 市政レポート
30▶31 ささやまホットステーション
32▶33 はぐくみ
34▶37 施設情報
38▶43 インタビュー

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、掲載記事の内容が変更になる場合があります。その際は、市ホームページなどでお知らせしますので、ご確認ください。

丹波篠山市ふるさとの森づくり条例で市民、特に子どもたちが里山や木とふれあう機会づくりのため、5月5日を里山の日と定めています。里山の日は、森や里山関連施設などでさまざまなイベントが行われます。

登山イベント

5月5日(水・祝)

多紀連山
8:30集合
○火打岩～御嶽コース=多紀連山駐車場(火打岩698)
○栗柄～御嶽コース=栗柄健康広場(栗柄577)
問い合わせ 観光交流課 ☎552-6907

弥十郎ヶ嶽
9:30集合
波々伯部神社境内(宮ノ前)
問い合わせ 城東公民館 ☎556-3171

5月9日(日)

大野山
9:30集合
丹波篠山渓谷の森公園(後川上)
問い合わせ ☎555-2323

深山
9:30集合
ささやまの森公園(川原)
参加費 200円
問い合わせ ☎557-0045

施設のイベント

篠山チルドレンズミュージアム

☎554-6000

ごんた山トレジャーハンター
ちるみゆーの裏山「ごんた山」を駆けめぐり、地図やポイントにかくされたヒントをもとに、みんなで力を合わせて宝をさがそう!

とき 5月2日(日) ①11:00～12:00
②13:30～14:30
5月3日(月・祝) ①11:00～12:00
②13:30～14:30

ところ 篠山チルドレンズミュージアム(小田中)
定員 各回15人(付き添いの大人含む)※予約可。
参加費 700円

ささやまの森公園

☎557-0045

ウッドバーニング、ウッドクラフト、コケ玉作り(25日のみ)・テラリウム作り(24日・2日のみ)、葉脈しおりを作成♪

とき 4月24日(土)、25日(日)、5月2日(日)
時間 10:00～15:00
ところ ささやまの森公園(川原)
参加費 100～300円

おとわの森ファミリーフィールド

☎550-9037

季節の野菜の苗植え、ピザ釜の手入れなどをするよ!

とき 4月24日(土)、5月29日(土)
時間 9:30～12:00
ところ おとわの森子育てママフィールドプティプリ(味間新)

丹波並木道中央公園

☎594-0990

里山や木にふれあえる体験型のイベントを開催!
ところ 丹波並木道中央公園(西古佐)

ツリーイング体験
とき 5月8日(土)
時間 ①10:00～
②12:30～
③14:00～
参加費 500円

木の万華鏡を作ろう
とき 5月30日(日)
時間 ①10:00～
②13:30～
参加費 600円

※丸太切り体験以外は要予約(開催前日まで)。

丸太切り体験
とき 5月22日(土)
時間 ①10:00～11:30
②13:30～15:00

木工クラフトづくり
とき 5月22日(土)
時間 ①10:00～
②11:00～
参加費 500円
時間 ①13:30～
②14:30～
参加費 1,000円

丹波篠山市川阪集落 川阪オープンフィールド

☎550-9037

耕作放棄地を活用して、田植えや季節の野菜苗植え、獣害対策の実施、草刈りなどの地域支援をします!

とき 4月25日(日)、5月2日(日)、5月16日(日)
時間 9:00～12:00
ところ 丹波篠山市川阪集落
※川阪オープンフィールドへの参加登録が必要。



丹波篠山市民は
入館無料!

ちるみゆー設立20周年



篠山チルドレンズミュージアム(ちるみゆー)は、今年設立20周年を迎えます。そして、4月から丹波篠山市民はどなたでも入館無料になりました!より気軽に出かけられる施設になった「ちるみゆー」。子どもも大人もたくさんのご来館をお待ちしています! 問い合わせ ☎554-6000

----- 指定管理者新たに -----

令和3年度から指定管理者が変更となり、新たに「一般財団法人ポジティブアースネイチャーズスクール(PENS)」が運営を担います。

PENSは、「人づくりの場づくり」を目的に京都で設立され、自然体験活動の現場で子どもたちが自由に走り回り、感性を育む「場」を提供してきました。

最近では、京町家を使った創筆庵、大人のたき火場としての焚火庵など、世代を超えて集える「場」をつくり続けています。



指定管理者から

これまでのちるみゆーが大切にしてきたコンセプトを基本にしなが、PENSの得意とする自然体験を生かした子どもたちの居場所づくりに取り組みます。また、地元の方々とのコミュニケーションを大切に、地域ミュージアムとしての役割を担っていきます。

丹波篠山に来て、ちるみゆーを運営することで地域を盛り上げていこうと思っています。これまでのちるみゆースタッフもはりきって皆さんをお迎えます。ますます盛り上げていきますのでご期待ください。

また、ちるみゆーは施設内に学童保育施設「多紀児童クラブ」があります。ちるみゆーの指定管理業務とは別事業ですが、PENSが培ってきた経験を生かして学童保育事業も受託しています。子育てを通しての地域づくりをめざします。

一般財団法人ポジティブアースネイチャーズスクール

代表理事 砂山真一
篠山チルドレンズミュージアム 館長 垣内敬造

待ってる
ケロ

大学連携でんしよばと

問い合わせ
神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ ☎506-6628
神戸大学丹波篠山フィールドステーション ☎506-2366

えきラボ通信

Rural Innovation Lab

篠山イノベーターズスクールのひとコマをご紹介します！



スクールプログラムは①CBL(地域プロジェクト実践型学習)②セミナー③起業・継業サポートの3本立てです。今回は、2～3月に開講したセミナーの一つ「コピーライティングとデザイン」を紹介します。

コピーライティングとデザイン

デザイン、と聞くと、絵を書いたり、図形を組み合わせたこと...といったことを思い浮かべるかもしれませんが、この講座では、「思いやアイデアを言葉にする」「言葉によって思考を深める」「伝わるように伝える」といった言葉のデザインについて、媒体や企画作りに役立つ考え方や方法をワークショップなどを通じて体感的に学びます。

◀3月に実施した、2020年度プログラムの様子

篠山イノベーターズスクール2021年度プログラムが5月から開講！引き続き、スクール生の活動を発信していきますのでご期待ください！
※2021年度生の募集は終了しました。2022年度生の募集は、2022年2月ごろを予定しています。

学生・アクションラーニング



第1回丹波篠山研究発表会を開催しました

第1回丹波篠山研究発表会を開催しました。この発表会は、神戸大学だけでなく、丹波篠山市をフィールドとして研究・活動するさまざまな方が地域の皆さんに成果を報告するための会としてリニューアルし、今回が第1回目となります。

当日は、地域実践活動発表が7組、丹波篠山に関する研究発表が7人、合計14題の発表をオンラインと市内3カ所の中継会場をつないでお送りしました。

学生による地域活動報告のセッションでは、実践農学グループが地域おこし協力隊コーディネーターのインターンシップを行って「半学半域型隊員を増やす工夫」について考察した結果や、関西学院大学栗田ゼミと後川地区、神戸大学の学生団体AGLOCCと岡野地区、にしき恋と西紀南地区など、学生たちと地域の方との温かな交流の様子が報告されました。

(清水夏樹さん：神戸大学農学研究科特命准教授)



発表者の多くは自宅や職場からオンラインで報告



丹波篠山フィールドステーションの中継会場となりました

ササる!協力隊



ホームページをリニューアルしました！

新型コロナウイルス感染症の影響もあってか、丹波篠山へ移住したり、移住を検討したりする方が増えているようです。

移住支援施策でもある地域おこし協力隊制度。今後、より広報に力を入れていきたい！と思い、ホームページをリニューアルしました。協力隊員の活動や、人となりがよくわかる充実した内容となっています。

身近に「丹波篠山への移住や起業を検討している」「大学生で、丹波篠山のまちづくりに関わりたい」という方がいたら、ぜひこのホームページを紹介してください。2022年度隊員の募集期間は、今年の9月ごろまでを予定しています。情報をお見逃しなく！

活動についてのお問い合わせはこちらまで！

☎506-2324 丹波篠山フィールドステーション かわぐちひでみ 河口英樹さん



今月のこんにちは市長室

市長が市政に対してのご意見やご要望をお聴きする場として開催しています。事前の申し込みは不要で、懇談会または1人15分程度の面談です。

とき 5月10日(月) 13:30~16:00

ところ 西紀支所

問い合わせ 秘書課☎552-5109

ふるさといちばん

市長の **HOT** とく

丹波篠山の時代をつくろう



市の鳥にツバメ



カワセミ



春になって、どこか南の国からツバメが帰ってきました。市の鳥に「ツバメ」と清流の美しい鳥「カワセミ」を選びました。丹波篠山市の鳥選定委員会で協議したものを3月の市議会で決定したものです。市の木は「サクラ」、市の花は「ササユリ」。ところが鳥はなかったため、市民からのご意見もあり、市制20周年を経て選ぶことになりました。

市の鳥を決めるにあたり、市民をはじめ、自然環境に詳しい専門家、小学校、篠山東雲高等学校の先生、自治会長さんを中心とした選定委員会を開きました。

また、昨年10月から12月までの間に、丹波篠山市にふさわしい鳥を尋ねる市民アンケートを実施しました。一般の部で1位はツバメ、2位はカワセミ。小学生・中学生では1位ウグイス、2位がツバメとカワセミがほぼ同数。全体では1位ツバメ、2位カワセミでした。また、平成27年

から令和2年までの小学6年生への守りたい生きもののアンケートでは、カワセミとツバメが1位と2位を占めていました。

これらを参考にしながら、①身近に感じられるか②幸せや喜びを与えてくれるか③丹波篠山らしさや市の施策に合致するか、などの点から検討しました。

第2回目の会議では、「ツバメ」「カワセミ」「ウグイス」「サギ」にまでしぼり、第3回目の会議で、いよいよアンケートの結果を参考に協議しました。他市では複数選んでいる所もあるので、その方向としました。

まず選ばれたのが「ツバメ」です。

「古くから人々の生活に密着して愛着がある」「田園を飛び交う姿は農都にふさわしい」「巣作りや子育ての姿から、小さな命を大切にしている心や、子育ていちばんにつながる「春に必ず帰ってくるので「住もう帰る」に通じる「巣が作られる」と幸せや豊作・商売繁盛につながる」など、ほとんどの委員から選ばれました。



次に「カワセミ」です。

「飛ぶ宝石と言われる美しい姿は幸せや喜びを与えてくれる」「清流に住むイメージで清流のまちにふさわしい」「カワセミは護岸の土を掘って巣を作ることや、エサとなる小魚が住める水辺環境が必要なことから、市の進める自然豊かなふるさとへの川づくりの事業に通じる」「子どもたちに人気などの理由です。」

「ウグイスも人気でしたが、「鳴き声は知っていても姿がよく分らない」「すでに多くの自治体で選んでいることから、「カワセミ」には及びませんでした。

なお、「サギ」も、「田園風景になじみ、自然と共生するイメージにふさわしい」など、人気も比較的高かったのですが、コロナなどで迷惑に感じる方もあり選ばれませんでした。

選ばれなかった鳥も、みんな友達です。

「ツバメ」と「カワセミ」、友達の鳥も、市民にますます愛されますように！

